

私の歩んだ道

大分県・富士紡績労組大支部・望月 尚

軍国主義から民主主義へ

私たちは幼い頃から、学校、新聞、ラジオ等で「お国のため」「天皇陛下のため」と軍国主義を叩き込まれてきました。

昭和20年、満州国政府に採用され、委任官試補に任官、軍事部勤務を命ぜられ、満州国の治安に尽くす覚悟で渡満。満州生活にもようやく馴れた8月、ソ連軍の進攻により21年4月までソ連の占領下での生活でした。

私は、満州国軍が改組した国民政府軍に外人部隊として入隊し、4月ソ連軍が“新京”より引き揚げと同時に周囲を取り囲んだ八路軍（現中共軍）と、三日三晩戦いましたが敗戦、1ヵ月の逃亡生活をおくり、5月国民政府正規軍の進攻で東北司令長官部軍事連絡組に所属、山中に籠った日本軍に終戦を伝え、日本に引き揚げることを説得する任務に付いた。

日本人の引き揚げが始まったのも5月からで“新京”最後の引き揚げ列車で11月に祖国日本の土を踏むことができた。

昭和22年7月に富士紡績（株）中津工場に入社。23年大分県主催の労働講座にて民主主義を学び、軍国主義より民主主義に脱皮することになる。

会社籍37年 労働運動37年

私が入社した当時、中津工場は絹糸紡績で、組合員は男子200名、女子1000名の支部でした。

2ヵ月後、組合員となり9月の青年部の大会にて幹事に選ばれ2年間勤めました。当時の青年部の活動は活発に行われており、民主的労働運動の先頭に立つ気運が青年組合員の中に次第に盛り上がり、時には執行部の決定に反対する行動もあり、青年部の任務と権限について、支部の中で二重組織となった感があり、24年、支部は執行部の中に青年対策部を作り一本化した。

昭和24年、支部の決議機関である常任委員会の委員に全区（定員5名）に立候補して当選し、組合員の地位向上、労働条件向上のため活動を行う。

26年、支部長が市会議員に当選、公私共に多忙のため、支部独自で書記長専従制を発足させ、23歳にて専従書記長に就任し、4年間専従で組合業務に専念。この間、中津工場は絹紡よりスフ紡に転換することによる希望退職、省力化等によって組合員が減少したことに伴い、昭和30年、非専従書記長となった6年間は職場に復帰する。

昭和36年、本部機構改革により支部書記長専従制が認められ、再び専従書記長として14年間、専念したが、この間、中津工場は56年スフ紡より綿紡に転換、希望退職、綿紡機の省力化による組合員減少等により、以後7年間非専従書記長を勤める。

57年、永年、共に組合運動を行ってきた支部長が定年となり、後継の支部長に選ばれ、59年11月、私も定年を迎えた。

私が歩んだ37年間の組合運動の主な思い出

- ① 幾多の賃上げ、一時金闘争の中で、小雪の降る中での正門前の座り込み、ストライキ等、不平不満もなく組合員が統制を乱さず行動をしたこと、特に、昭和30年の「キャラメルスト」と言われた賃上げ闘争のとき、賃金カットの金額は在籍中には取り戻せない状態の中で、「後輩のため賃金ベース上げる」と頑張った女子組合員。
- ② 昭和27年、岡山の正織争議応援オルグで組合員との交流、ピケ破りとの競り合い、胸の打撲で苦しんだこと。
- ③ 昭和29年、近江絹糸争議で本社に籠城した組合員の応援。
- ④ 三井三池の大争議の壮絶な闘いの中での新労の応援。
- ⑤ 組合の統制ある行動こそ、その組合の強さである。

友誼団体との関係（年号は昭和）

- 26～31年 中津地区労働組合協議会書記長、のち副委員長
- 26～28年 大分県労働金庫設立準備委員長、理事2年
- 27年 全織同盟大分県支部設立（富士紡大分・中津、郡是旧杵、片倉宇佐）
- 27～57年 ゼンセン同盟大分県支部 常任委員7年、副議長21年、議長2年
- 34年 全労大分地方会議 副会長
- 35～36年 全労大分県北地区協議会 事務局長
- 37～49年 大分同盟県北地区同盟 事務局長
- 50～57年 大分同盟県北地区同盟 議長
- 50～59年 中津地区民間労組協議会 副会長
- 52～59年 県北労働者福祉協議会 副会長

政治活動

- 23年 日本社会党入党
- 26年 社会党分裂により右派社会党へ
- 36年 民社党結党により民社党に入党
- 59年 民社党県連統制委員長

参院選（全国区）

赤松常子先生から、かわいたかのり候補まで10名の選挙戦を闘う。メガホン片手に標旗をかかげ、青年、婦人組合員と街頭での宣伝活動、バイク、自転車でゼンセン組合員の紹介カードとニギリ飯を持って、青年委員会のメンバーと遠く離れた山の中まで戸別訪問をしました。

地方区では、平成元年の埼玉地方区の佐分利候補の応援に、OBでしたが、富士紡労組のオルグとして25日間、所沢事務所に派遣され、紹介カードによる戸別訪問、ビラ配りもしました。活動の甲斐もなく当選させることができませんでした。

衆院選（宮崎）

米沢候補応援で富士紡労組オルグとして平成2年、5年の選挙では組合員の家庭を訪問し、協力依頼を行い、当選させることができました。

地方選

知事、県議、市長、市議員についても毎回支持候補を決めて闘いました。

OB友の会に入会して

昭和59年、定年退職してゼンセンOB友の会に入会し、また、富士紡労組中津支部OB会の幹事長を引き受けましたが、60年4月の中津工場の火災により富士紡労組「中津支部は解散になりました。親組織を失ったOB会ですが、現在まで会員一同活動を続けています。平成11年5月に会長に選ばれまして現在に至っています。昭和60年にはゼンセン大会において名誉組合員を委嘱されました。

昭和61年6月、富士紡大分、中津、旭化成坂の市のOB会の代表者が集まり、ゼンセンOB友の会大分県支部を結成しました。平成7年よりOB友の会大分県支部長に選ばれ、同年、大分県高齢退職者連合の結成に県支部を代表して参画し、副会長に選出されて現在に至っています。

おわりに

19歳で労働運動に入って60年、はじめは若さと行動力で突っ走ってきたが、組合員との交流、他団体役員との交流の中で、自分に身に付くものを覚えてきました。組合を強くするには、組合の統制力と組合員の自覚による結束が一番大事なことで、数の大きさだけでなく、求められたことを必ず実行する組織であることを心に刻んできました。

特に、一番行動力のある青年・婦人委員会諸君の活動こそUIゼンセン同盟を発展させる原動力である。若い力をもって民主的労働運動を進めるUIゼンセン同盟の先頭に立って今後ますますの発展をされていくことを望みます。

今後も、UIゼンセン同盟発展のため協力を致します。

(平成19年5月記)